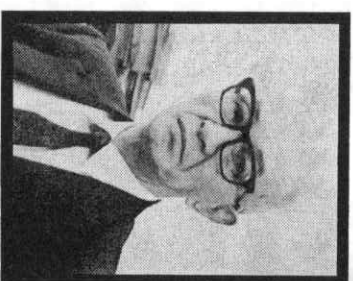


岩片部長を悼む

先生と私

慶応義塾大学体育研究所

教授 兵藤昌彦



(故岩片秀雄教授)

御家族の方々は申すまでもなく、早稲田大学バドミントン部のO. Bは勿論、現役の諸君の悲しみを、お察し申し上げ、深く哀悼の意を表します。

故岩片部長とは、バドミントンを通じて、それも年1回の定期戦の折りに、コートサイドに、懇親会で親しく御話合いました。先生は専門と小生のとは、その分野は異なるので、専らバドミントンからスポーツ一般に亘つてです。

現在、早稲田が1部で活躍しているのも、現役、O. Bの努力は勿論ですが、先生の陰から力によるものと、私は信じて居ります。

最後に、1昨年、早稲田大学記念会堂での定期戦に先立つて行われた贈呈式、——早稲田側O. Bより先生の理事就任記念品、続いて慶応側O. Bより小生への還暦記念品の贈呈、——式後共に、今後の発展を誓い合いましたのに、僅か一年有糸で他界された先生、真に残念と申す外はありません。

岩片部長を偲びて……

稲門バドミントン部会長 津田信一

六月七日に「岩片先生が御危篤との事ですが」と云う電話を受けた時、そんな馬鹿な事、私が先生にリーグ戦の結果を御報告に行ったのが、五月二十五日大変元気で、「六月一日より関東病院へ食事療養として入院なさるが、痛その他別状なし、退院なされたらゆつくり部の相談に伺います」と親しくお話し申し上げたのに……全く突然の死去でした。

私が初めて先生のお宅へ部長就任のお願いに伺ったのが、昭和二十六年、夢のように二十年が過ぎ去つてしまいました。そして、はからずもお目に掛かり、お話し申し上げた最後の人になってしまいました。先生には、部創立以来二十年の永きに亘り種々、御薫陶を戴き、やつと昨年来リーグ戦でA級入りをとげ、優勝の胸上げを目前にしながら……突然の死去。我々は何も先生に御恩返しも出きないうちに……かえすがえすも残念でなりません。

早慶定期戦もはや十八回を数えるに至りましたが、先には創立者であられた奥井先生を、又今回は岩片先生を失つてしまいました。そして我々早慶両校の後輩達は今こそ、両先生の御遺志を継ぎ、この早慶定期戦をより意義と価値あるものに育てて行かねばなりません。それには早慶戦こそが学生スポーツの最高峰として存在せねばならないと思います。スポーツである以上参加するだけでは意味がありません。相手に勝ち、己れに勝つべく常に訓練に励み、優勝杯を目指し自己の力の百分を發揮し、その結果がリーグ戦の優勝に結びつかねば意味がないと思います。そして早慶戦こそが、まさしくリーグ戦の前衝戦にならねばならないと思います。そう云う意味の早慶戦にするべく、早慶両校の先輩、後輩ともども努力を重ね、真に意義ある早慶戦を岩片先生の墓前に捧げる日の一日も早からん事を祈るものであります。

大会挨拶

慶応義塾体育会
バドミントン部々長

平 良

早慶戦の記録を振り返ってみると、対校戦開始後10年間は慶応の勝利、その後は早稲田の勝利であることは誰もが気付くところである。早慶戦というものは単に試合において勝敗を争うことにあるのでなく、この機会に二つの最も親しい学園が交誼を深めるものであることはいうまでもない。とはいえ、早慶戦においてはそれぞれが日頃鍛えたバドミントンの技術をお互いにつけ合うことによつて、お互いに将来の成長の糧とすることに本来の意味があるろう。そのように考えてみると、記録に残された戦績は慶応の勝から早稲田の勝に移るごく短い期間を除いてお互いにも力量の差があることを確認する結果になつてしまふ。お互いに予想出来ない形で勝負が繰り返えられることが最も望まれることなのである。

このような結果になつてしまつていふことは、色々の説明がされるものである。しかし、私達は一切の弁解を排してお互いに競い合う力をつけなければならぬ。スポーツにあつては、強者が譲る事に美徳があるのではなくて、弱者は強者を追い、それに優らなければならないのである。そうした意味においても、慶応義塾の一層の奮起を期待したい。バドミントンには技術もあるであらうが、それを補う最大の気力を奮つて早慶戦をさらに爽りあるものにして欲しい。

早稲田大学
バドミントン部々長 河村秀平

第18回定期戦に際しまして一言御挨拶を述べますことは私の誠に光榮とするところであります。早慶共に相携えて18年の長きに亘り、技量を競い心身を鍛えそして友好を持って参りましたことは、心からうれしい事でありませう。又創設当時から慶応義塾大学の諸兄の絶大なる御指導に衷心御礼を申し上げます。茲に大会が今年も亦例の如く行われますことに對し「おめでとう」だけでは唯月並な言葉に過ぎないとは云え、万感をこめて、この大会への祝辞とす次第であります。

本年の当番校に当ります早大にとりまして、先般部長岩片秀雄教授が急逝されましたことは誠に残念なことであります。岩片教授は早大バドミントン部創部以来の部長として部と共に苦楽を分かち、又色々御指導下さつたわけでありませうが、故岩片部長のひたすらな願いはこの早慶定期戦を斯界の刮目する一大行事たらしめるといふことであります。私計らずも後任部長に御推挙を戴き、非力ながら、とりあえずその重責に任する決心を以て受諾拜命致しました。私の一つの決心は、故岩片部長の遺志を受けつき努力することでありませう。茲にこの紙面をかりて御挨拶申し上げます。関係諸兄の御指導と御鞭達を御願いを申し上げます。

スポーツに限らないことではあります「全力を尽すこと」それは本人自身の体験によつてのみ得られるものであり、その結果として技量の向上もある。これこそ我々の指導原理であると思ひ又目標とするところであります。

既に準備完了し満を持している両校の選手諸君、更に精神力又は敢闘精神を十二分に發揮して、模範的な大決戦を展開されることを期待するものであります。

早慶定期戦によせて

36年慶応義塾大学商学部卒業

高井貞夫

吾者らしく、きびきびと、一時のプレーも捨てずに、フアイト満々に伝統の早慶戦に臨む現役諸君。そのひきかえ「ソレノスマツツユ」といくら威勢の良い掛け声をかけても、シャトルはフワフワとんでゆくだけ、現役時代の素早いフットワークも出来ず、バタバタコート走り回り、突き出た腹をゆさぶつてヘアヘア言いながら、やつとのものでセットを消化するOB連中。共にそこにはバドミントンの魅力に取つかれた仲間の姿があり、年に一度のこの日を、楽しみにしている。

現在諸君は腹谷で、又多摩川で足腰を鍛えたことでしょうか。おつかない宮永監督の指導で充分しぼられたことでしょうか。又老いた身体にムチ打つて、好きなクラブ通いもしぼらくやめて、せめて空振りなどせぬよう涙ぐましいトレーニングをしたでしょうかOBも今年こそは、WASEDAさんを徹底的にいいためつけて、勝利の美酒を酌み交わそうではありませんか。

30年早稲田大学文学部卒業

川口高誉

早慶定期戦も今年で18回目、早稲田も今まで多大のお世話をいただいた慶応諸兄とどうやらお付合出来る様になつたと聞いて喜んでいきます。

OBとなつて早くも15年、卒業後3、4年はともかく、その後すつかりこの世界にご無沙汰していたため、最近の情報も知らない私に寄稿を依頼され、さて困つたなと思案していたところ、机の隅から古い資料が出てきました。特に第一回の定期戦の新聞記事が出てきましたので、そのままメモしてみました。

昭和28年5月9日報知新聞より “早の肉薄がみもの おす早慶バドミントン”

「本社後援の報知杯争奪第1回早慶バドミントン定期戦は5月10日午後1時から神田国民体育館で行われる(中略)昨年の学生 No.1 慶大と今春1部に昇格したばかりの早大とでは実力に相当の開きがあり、まず慶大の勝利は動くまい(中略)興味は劣勢の早大がどこまで慶大に肉薄するかにある(中略)森友監督は“この対戦を伝統的な一戦とするために慎重に戦います”と語っている」

当時の慶応諸兄の実力は、我々にとつてたゞ驚異の一語に尽きました。あれから18年、両校関係者の努力でこの定期戦も充実の一途をたどっていることは本当に喜ばしいことです。12年後の定期戦をめざして我が川口二世兄弟も是非出場させたいと今から仕込んでおります。

年に一度のこの親善の場を、その家族を含めた両校バドミントン関係者の友情、懇親のつどいとして差展させていきたいと願っております。

「早慶戦」残念なことに、僕はこの言葉から勝利を思い浮べることが出来ません。塾の11連勝にスプレをかけたのが僕の一年生の時、それ以来連敗を喫し続け今年も塾の劣勢は免れません。しかし必衰の理のごとくいずれ塾が覇者となる日が訪れることと確信しています。どうか現役諸君にはその日為に長い目を持って精進して欲しいと思います。

現役時代には悔しい思い出ばかりの早慶戦ではありましたがOBとなつてからは毎年参加させていた大きな楽しみをさせていたと思います。社会に出ますと学生時代の先輩、同輩そして後輩ともほとんど会う機会がなく、まして早稲田の方々はまるで御無沙汰してしまいますだけに、年一度の両校合同の同窓的な集いを今年も楽しみにしています。

卒業してから三回目の早慶戦、そろそろ同期の仲間の中にはフアン仲間同伴なんて言うのもあるかも知れませんね。又先輩の方々にはお子様連れでお見えになる方が増々ふえることと思います。

現役同士の激しい試合とこの様なOBのなごやかな雰囲気とが同居する早慶戦は他に類を見ない対戦合です。今後とも増々発展させたいものと願っております。

しかし、毎年のOBのなごやかな雰囲気も現役同士の息詰るような激しい戦があつてこそ初めて生れるのではないのでしょうか。その意味でもどうか塾の学生諸君頑張つて下さい。戦前の予想を裏切る様な健闘を期待しています。

最後に今年主催して下さる早稲田の皆様にご心から御礼申し上げますと共に、ここしばらく低迷が続いております。塾を今後とも宜敷く御指導下さる様お願い致します。

44年早稲田大学教育学部卒業

佐 藤 清 志

卒業してから1年半。東京を遠く離れた東北八戸で卒業生としては数少ない教員生活を送っている私にも折りに触れ、中央のパピメントンソンの情報が入つて来ます。早稲田はこの春のリーグ戦三位とはいえ、上位校と同率という創部以来の快進撃の様子。現役諸君の奮闘を誉えると共に、指導に当たっているOBの方々に感謝しています。秋には今一段の飛躍を期待されます。しかし残念なことに、永年にわたつて早稲田の目標であり、ライバルでもある慶応の活躍が報じられないことには一抹の寂しさを禁じ得ません。ここに第18回早慶定期戦を迎えるに当り、両校の現役、OBの心中や如何。それぞれ必勝を期して秘策を練つておられると思います。

過去17回の対戦成績は慶応の11連勝の後、早稲田の連勝と、両校の力のすれ違いの様子を如実に表わしていると思います。

定期戦も年々拡大、充実して来ました。現役の生々とした力強いプレー。古いOBの優雅な疲れはするだろうがスパートなプレー。現役を上回るのではないかと思われる高度なテクニクを駆使した新しいOBのプレー。戦い終つての親睦会等バラエティに富んでいます。が何といたつても花形は現役戦で、ただ単なる伝統ある両校の華やいた定期戦というだけでなく、年間の鍛練の発表の場であり、またその年の下半期の戦力の打診という大事なゲームであります。

この早慶定期戦を創設されたOBの方々以来の念願である“早慶で日本一を争う”までになつてもらいたいという期待に早く応えてもらいたいです。そのためには早稲田も今一層努力を重ねる力をつけるでしょう。慶応も過去の重いまでの栄光を背負つてはいるが、いつまでも「眠れるソッ」ではないでしよう。教えて今年で18回目。何回目まで目標達成できるでしょうか。現役、OBの方々の御健闘を祈ります。

早慶戦冗句

37年早稲田大学商学部卒業 井垣和太

一年（線審）

フット宣告先輩から目を外らし

二年（主審）

来年は俺がコートの中と賭け

三年（初出場）

これジャトル晴の舞台になぜ逆う

四年

四年目は真中にいる記念写真

〇・B 三年

届いてる筈のラケット空を切り

〇・B 八年

大声を出し膝の子が飛び上り

次

にストツ
かし勝者
その日の

ていただ
はとんどの
の同窓会

るかも知

い対抗試

めて生ま
切る様な

を續けて

志

る私にも
うえ、上
OBの方
て早稲田
たん。こ
策を練つ

に表わし

それはする
と新しいO

ただ単な
Eの下半期

つてもらい
をつけるで
ことはない
明健闘を折

チーズのおいしさを
タップリと
パッキングした



Know
チーズクリームスープ。

監督挨拶

慶応義塾大学体育会バドミントン部監督

宮永武司

いよいよ早慶定期戦も18回目を迎える時となりましたが、吉田先輩の後を受け継いで監督となつて初めての定期戦だけに私自身としても全力を傾けてまいりました。今シーズンは春の合宿以来目標をこの早慶戦にしぼつて練習計画をたてて来ましたので、先輩諸氏の築かれた輝かしい伝統を汚すことのない様全員一丸となつて頑張つて必ずご期待に添えるものと思ひます。

ここ二、三年の早稲田の素晴らしい躍進に敬意を表するとともに1日も早く、特に大学男子に於いて対等に勝負出来る様“胸を借りる”つもりで頑張り一歩一歩黄金時代の再来を期しております。今シーズンは「大学男子、女子、高校」を一つのチームとしてチームワークで早稲田を圧倒するつもりです。

最近大学運動部については、各種の問題をかゝえて曲り角に來ている感を受けますが、我部としては、春日頃から“チームの和”と“努力の積み重ね”をモットーに学生スポーツのあり方を本来のものとしてべく又新しい70年代の学生スポーツを確立して行きたいと思つています。

この、定期戦をその挑戦スタートの大会として春以来の練習の成果を充分発揮いたしたいと心に期しています。スポーツに勝負はつきものですが、やはり勝つことに意義があり、そこから進歩も生まれて來る訳ですので、最後のポイント迄一杯頑張れり今後の礎にしたいと思います。

最後に早稲田の皆さんのご健闘を祈りますと共に両校の先輩諸氏に今後共ご支援をお願いいたします。

早稲田大学バドミントン部助監督 福井正康

昨年秋のインカレでは準優勝、今年春の関東リーグ戦では法政大学を破るなど、創部以来の快事が続いています、団体戦にみせる吾が部の執念はかなりのものがある様に思われる。しかし、関東選手権、東日本選手権の如き個人戦に於ては、その緊張感、連帯意識が雲散霧消してまことにたよらない選手に変貌するの感を深くする。その原因の解明に努力をしているのだが、結局は選手個人の持つ自覚の欠如ということになりそうである。

合宿等では肉體面の強化が行われているが、精神面の充実を意図することがとかくおろそかとなりがちで、これはOBの責任とも言える。さて恒例の早慶戦に臨み、往年のチャソビオンが数多くひしめく慶大OB各位の風格と伝統を吾が現役部員の1人1人に感得させまた勉強もさせたい。そして数を頼んでの勝利ではなくて、個人・個人が真の自覚の下に必勝を期し、その結果が総合の勝利につながるということを期待する次第である。

高校メンバ―

慶応義塾高等学校メンバー

1	主 将	大 竹 勝 彦	3 年	慶応義塾普通部出身
2	主 務	鈴 木 利 明	3 年	田園調布中学出身
3	副 将	福 富 正 明	3 年	練成中学出身
4	選 手	野 村 克 己	3 年	一橋中学出身
5	”	中 東 治 彦	3 年	田園調布中学出身
6	”	伊 藤 泰 秦	2 年	田園調布中学出身
7	”	原 義 明	2 年	中野第八中学出身
8	”	高 橋 龍 太郎	2 年	慶応義塾普通部出身

主 将 抱 負

慶 応 義 塾 体 育 会
バドミントン部高校主持

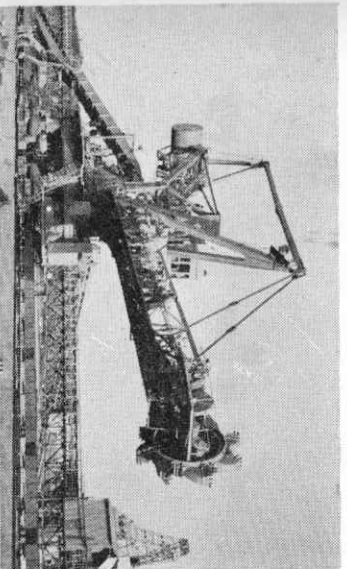
大 竹 勝 彦

今年もまた早慶定期戦がやってきました。高校戦は今回で8回目を向える訳ですが、前回について連勝にストツブをかけられ、初の1敗を喫してしまいました。この苦い経験をもとに今年こそはぜひ勝つて、再び連勝記録を打ちたてようと、「打倒早稲田学院」を合言葉に練習に励んできました。暑い日のトレーニング、きびしい合宿の試練にも昨年の雪辱を果たすまでと頑張ってきた我々です。

この定期戦では今までの成果を充分に発揮し、カいつばいのプレーをしたいと思っています。

プラントからパーツまで

機械のモリタニ



創業



1901年

株式会社 **守谷商會**

本社 東京都中央区八重洲2-3-1 TEL 272-5651 (大代)

支店・出張所

大阪・福岡・名古屋・金沢・仙台・札幌・広島・高松 (海外) 台北・ソウル・シカゴ・香港・アラスカ

高校メンバー

早稲田大学高等学院メンバー

1	主 副主 選	将 将務 手	大 久 保	義 明	則 男	3 年	学芸大学付属 小金井中学校出身
2			土 加	法 藤	治 哲	3 年	文京第6中学校出身
3			酒 桑	寄 道	郎 彦	3 年	神明中学校出身
4	"	"	山 西	田 辰	一 彦	2 年	開進第3中学校出身
5	"	"	山 西	田 辰	郎 彦	2 年	開進第3中学校出身
6	"	"	山 西	田 辰	郎 彦	2 年	和歌山大付属中学校出身
7	"	"	山 西	田 辰	郎 彦	2 年	練馬中学校出身

主 将 抱 負

大 久 保 義 則

我々高校戦は今年で8回を数え、また我が部も創立8年をむかえました。

連敗の記録に終止符を打ち、連勝を宣言してから1年、尚一層の「打倒慶応」の念を持ち、きょうまで練習に励んできました。

きょうこの早慶戦で練習の成果を存分に発揮し、是が非でも勝ち、連勝の先がけとなすとともに、高校3年間バドミントンで得たものを改めて認識し、良き思い出したいと思います。

キツチン・カナリヤ

早大スクールバス馬場下ヨコ

TEL (203) 3 9 1 9

慶応義塾大学メンバー

部長	平 森	良 美	慶応義塾大学教授
副部長	谷 永	”	” 高校教諭
監督	千西 雅武	昭和三十八年商学部卒	
コ	沖 健	昭和四十三年法学部卒	
”	”	” 44年	

1	主 務	鳥 村	明 郎	法 学 部	4 年	緑ヶ丘高出身
2	主 務	中 古	久 信	法 学 部	4 年	富山高出身
3	副 選	菅 栗	幸 英	法 学 部	4 年	磐田南高出身
4	選 手	宮 上	利 義	法 学 部	4 年	灘高出身
5	”	野 子	三 寛	法 学 部	4 年	茅ヶ崎高出身
6	”	藤 波	郎 元	法 学 部	4 年	会津高出身
7	”	田 井	明 郎	法 学 部	3 年	一条高出身
8	”	酒 中	朗 郎	法 学 部	2 年	天理高出身
9	”	中 辻	三 寛	法 学 部	2 年	甲府一高出身
10	”	山 中	郎 元	法 学 部	2 年	横須賀高出身
11	”	峰 中	明 郎	法 学 部	2 年	慶応義塾高出身
12	”	”	樹 明	法 学 部	2 年	名古屋学院高出身
13	”	”	雄 文	法 学 部	1 年	北陵高出身
14	”	”	也 幸	法 学 部	1 年	聖光学院高出身
15	”	”	和 幸	法 学 部	1 年	聖光学院高出身
16	”	”	和 幸	法 学 部	1 年	慶応義塾高出身
17	”	”	和 幸	法 学 部	1 年	国立高出身
18	”	”	和 幸	法 学 部	1 年	九段高出身
19	”	”	和 幸	法 学 部	1 年	

女子メンバー

1	選 手	川 今	耶 子	文 学 部	4 年	慶応義塾女子高出身
2	”	小 堀	立 敏	文 学 部	3 年	東京女学館高出身
3	”	池 切	紀 子	文 学 部	3 年	富山中中高出身
4	”	田 山	敏 佐	文 学 部	2 年	慶応義塾女子高出身
5	”	”	滋 峰	文 学 部	2 年	慶応義塾女子高出身
6	”	”	由 桃	文 学 部	1 年	東京女学館高出身
7	”	”	由 桃	文 学 部	1 年	学芸大付属高出身
8	”	”	子 子	文 学 部	1 年	カリタス学園高出身
9	”	”	子 子	法 学 部	1 年	田園調布隻葉高出身

主 将 抱 負

慶応義塾体育会
バドミントン部主将 福 島 由 明

早慶バドミントン定期戦も18回を数えるに至り、その伝統と栄光もますます輝かしいものとなっております。近年学生スポーツは曲り角に來たと言われますが、早慶戦はどのスポーツにおいても真の学生スポーツとして、誇り高きものと言うことができます。そしてこの第18回早慶バドミントン定期戦に主将として参加できることに深い感激を覚えます。

現在、大学男子においては、11勝6敗と勝ち越してはいるものの6連敗を喫し、早稲田一部に對し二部の我部の現実を見ると、力の差を認めぬ訳にはいきません。しかし、決してこの現状に甘んじている訳ではありません。本年度初頭より、宮永新監督のもと打倒早稲田を第一の目標に、合宿・練習に、全員一丸となつてぶつかつてきました。

試合には、常に勝と負しかありませんが、スポーツにおいては単なる力の差だけではないと思います。きびしい練習から生まれる自信、あるいはチームワーク、気力というものがある総合された結果であると思います。力の差はあつてもそれを補うべく他の大きな力を持つてこの伝統の定期戦に恥じない好試合を展開すべく全力で頑張ります。

早稲田の皆様よろしくお願ひします。

学生さんの 運転手・助手・倉庫係・募集中

- 一般社員と同様優遇(寮有り、各種保険有り)
- 一般区域貨物自動車運送業 ○ 倉庫業
- 気軽に電話下さい。

日 本 紙 運 輸 倉 庫 (株)

東 京 管 業 所

江東区越中島3-5-20 ●東西線 門前仲町駅徒歩 15分
●都電 富岡町徒歩 10分
(電：642-1936-8) ●都バス 都立三商前徒歩 2分

早稲田大学メンバー

部	長	河津	秀平	早稲田大学教授
監助	監督	村田	信正	昭和28年商学部卒
コ	チ	井	康一	昭和32年商学部卒
		関	誠	昭和38年商学部卒
				昭和43年教育学部卒

1	主	将	杉	本	準	教育	4	武
2	主	務	佐	倉	明	文	4	生
3	副	将	武	岡	進	文	4	高
4	選	手	野	並	治	工	4	出
5			矢	口	夫	学	4	身
6			今	井	滿	部	4	身
7			及	川	一	部	4	身
8			新	井	隆	部	3	身
9			桐	竹	賢	部	3	身
10			塚	田	人	部	3	身
11			加	藤	康	部	3	身
12			矢	島	二	部	3	身
13			二	上	博	部	2	身
14			大	田	夫	部	2	身
15			松	下	輝	部	2	身
16			本	間	享	部	2	身
17			土	田	一	部	1	身
18			高	木	郎	部	1	身
19			岩	下	生	部	1	身

女子メンバー

1	選	手	小	野	春	日	2	富
2			吉	川	裕	子	2	士
3			南	場	容	子	1	高
4			棚	沢	由	子	1	出
5			藤	原	良	世	1	身
6			蓮	生	和		1	身

主 将 抱 負

早 稲 田 大 学
バトミントン部主将 杉 本 準

第18回早慶バドミントン定期戦を早稲田の記念会堂で迎えるに当り、この伝統ある一戦に参加できるとを部員一同大きな幸せと感じています。

期待を持って迎えた春のシーズンを、大きな飛躍を遂げることもなく過してしまつた我々にとって、秋のシーズンの始まりを告げるこの定期戦は大変意味のあるものです。

この定期戦に大勝し、秋のシーズンへの踏み台したいと思います。

ここ数年我が部が優勢であり、今年も大勝を予想しております。しかしながら、慶応の早稲田に対するフアイトは並み並みならぬのがありますので、我々も安閑としてはいられません。ポイント数にかかわりなく、各選手が必勝の信念をもち、又勝敗のみならずフアイト、マナーすべての点において「打倒慶応」を旨とし頑張るつもりです。

そして、さらにこの定期戦が単なる親善試合に終ることなく、近い将来学生バドミントン競技の最高に位置する大会となるための一駒を我々の手で進めたいと思います。

我々の闘志と下級生の若さ溢れるプレーをご覧ください。

帽子のカザリ？



いいえ 半導体の一種 CdS ホトコンよ

何に使うの？

E/Eカメラや街灯の自動点滅器よ

どうなってるの？

CdSホトコンは、光が当たると内部の抵抗が変化する性質を利用したもので、トランジスタを自動的に閉じたり、手を出すと自然に水がでてきたり、盗難防止器等に使用されています。

半導体工業は、夢を完成する産業といわれ廿一世紀の豊かな生活を保険するカギは、半導体工業が握っているといつても過言ではありません。

サンケン電気は、半導体工業の専門メーカーとして、あなたの技術を開拓するために、全単独努力をこつけております。

SanKen

サンケン電気株式会社

本社・工場：埼玉県北足立郡新座町大字北野133 TEL 0484 (72) 1111
東京事務所：豊島区西池袋1-22-8 (千歳ビル) TEL (986) 6 1 5 1

バドミントン国際公式戦に関して

磨 応 義 塾 大 学 O. B
日本バドミントン協会副会長 森 友 徳 兵 衛

現在表記の試合は予選を含めたト杯ユ杯の試合のみであつて、特例として全英選手権を入れるにすぎないであらう。併し I. B. E. 加盟国同志の親善試合や、外人選手が参加する名の通つた国々の国内選手権試合では、公式戦に準じて行なわれなければならない。ここで問題となることは、他の国々での親善試合はさしおいて、日本バドミントン協会主催の大会を国際公式戦に則る必要があるか否かである。

10年前には国際感覚に眼覚めぬまま、I. B. F. の競技規則に従つた上で日本は日本のやり方で行なうべきであり、日本式のよいことがあれば I. B. F. に採択させるべきであるという風潮であつた。この方法で良かった点も多々ある。雑羽シャトルを専門に使用したことは全国普及に大きな力があつた。その外にもシャトルの検定や理事長制による協会運営、協会への個人登録など数えきれない程のプラスがある。別の面では国際交流が激しくなり、日本が世界のトップレベルに君臨する現在となると、そのマイナス面も考え、またそれぞれの違いを充分頭の中に入れて交流する必要がある。私は先般ト杯アジア地区決勝京都大会でオナレリーフエリー (H・R・名誉審判長) の大任を務める光栄を経験した。先の国際学生、ユ杯最終ラウンドのイギリス対インドネシアに続いて三度目となる。その後の協会の会議で幹部の相当な地位にある人の口から「森友さんは張切つて競技委員長の仕事までやつてしまつた」と云われた。私は「国際試合はそう云うものなのですよ」というのみで説明する気力も抜けて行くような思いであつた。H・R・の職分についての知識は全員が持つていなければならぬことと思う。細部に互るスペースはないけれども、この規定は I. B. F. ハンドブツクのト杯(ユ杯) 競技規定を見るとはつきり判る。多コート使用の場合は別に考える必要があるが、国内のように優秀な副長を従えてお委せて途中で来たり途中で帰つたりできない。全英では有能なる夫人をサテとしてジュニア一名誉主事が一人でダイムターナルから進行、シャトル管理までこなしていると聞く。主催のミスもシャトルのスピード決定も審判員の任免も全部 H・R. 大会は H・R を頂点として役員と選手で成立しているといえる反面、絶対の権限を与えられている。日本の方式の方がセクショナル管理でワソソから見れば数段進歩している筈である。併し日本以外の国が大会運営ワソソ式であるならば、日本での大会も参加者からは H・R. のワソソ運営と見られ交渉を受ける。I. B. F. はバンコクで自ら悪例を残してしまつたのであるが、これを例外として H・R. の権限は絶対であるし、また H・R. になる人の人格はそのことによつて証明されるということもできる位でなければならぬ。私は未熟であるが、日本でのト杯ユ杯の H・R. を記録した人は広田副会長と高倉 I. F. 理事にすぎない。外にも応わしい人がいるが、たまたま監督やその他の任務があつたりして現在まで三人にすぎない。相手チームの承認事項なので知られていることも条件だろう二人はクリスチャンであることを考えると自身恥しい思いだが、公正たらんとする気持は人に負けないつもりである。

競技規則そのものの解釈も従来一人よがりの点が多く、国内の多数決の解釈で進んできた面があり、これは大会運営規定の事故タイムなどと共に私として納得できる限り既に修正されたので現在には問題はない。これは全く今井先生のお力による所である。残つた大きな問題としてトーナメントにおける組合せ方法がある。日本式と J. B. F. 式の相違点は承知として話を進める。日本式の方が理論的に進んでいて世界が日本式をとり入れることを私も望む一員である。大きな理由は強いと目される者に初回から当るのを公平に避けている点、I. F. 式に比してスペースが半分という点である。昭和39年ト杯後の世界招待個人戦では参加者はソネビル氏以下すぐ日本式を理解した。トーナメントが最強者一人のみを選ぶ方式であるときめつける限りでは、日本式を押し進める理由はない。また現状の議決権で左右される I. B. F. ではこの程度の改革案は棄てられる公算が大きい。誰も習慣を変えたくないからであり、もう一つは昨年度 I. F. のハンドブツクで、特に一文がのつて世界は I. F. の組合せ方式を守れと注意があつたことである。現在の私は I. F. 式に日本も直さなければならぬと思ひながらも、日本式の良さを認めているので心では世界が日本式になつて貰いたいと思ひ心定まらない。自己逃避ではないけれども、今の組合せ方式で I. B. F. に文句をいわれる筋合ひはないし、説明も充分できる。その反面先方を従わせる説得力も私には充分といひ切れないのである。